

# TOEIC Bridge® Newsletter

December 2010  
No.18

## 特集 TOEIC®/TOEIC Bridge® 教員向けセミナー事例発表ダイジェスト

# テストを活用しながら進学や 将来のキャリアを見据えた教育を実施

去る2010年7・8月に、「TOEIC/TOEIC Bridge教員向けセミナー」を大阪、東京、名古屋で開催しました。当日は、文部科学省の構想を受けた教育委員会による英語教員研修の講師を多数務められた千田潤一氏の基調講演と、テストを活用する学校の事例発表が行われ、高大連携への取り組みや授業での工夫、海外語学研修などについて紹介されました。今号では、生徒の英語力向上に向けた授業方法や指導力向上への取り組み、テストの効果的な活用方法などをテーマに行われた6校の事例発表をダイジェストでご紹介します。



### Interview (2ページ~)

「言語の知識・技能」「表現する内容」  
「英語を使おうとする意欲・態度」の  
3つを揃えた指導が大切

—東京国際大学言語コミュニケーション学部  
学部長・教授  
新里眞男先生

新学習指導要領の施行や、グローバル化の進展に伴う英語力向上への社会的な要請の高まりの中で、いま中学・高校で求められる英語教育について伺いました。

### CONTENTS

#### Interview

「『言語の知識・技能』『表現する内容』『英語を使おうとする意欲・態度』の3つを揃えた指導が大切」

東京国際大学言語コミュニケーション学部 学部長・教授 新里眞男先生... 2

#### 【特集】TOEIC/TOEIC Bridge

##### 教員向けセミナー事例発表ダイジェスト

徳島県立徳島北高等学校.....	6
同志社香里中学校・高等学校.....	8
さいたま市立浦和中学校.....	10
芝浦工業大学中学高等学校／芝浦工業大学工学部...	12
梅村学園 中京大学附属中京高等学校.....	14
南山学園 南山高等学校・中学校女子部.....	16
TOEICエッセイコンテスト 結果報告.....	18
【Information】.....	20

2010年8月28日(土) 名古屋会場

# 高大連携教育の推進におけるTOEIC®テスト・ TOEIC Bridge®の活用(導入と現状)

## 梅村学園 中京大学附属中京高等学校

山口秀和先生

### 進学コースにて高大連携教育を推進 高大7年間にわたりTOEICプログラムを実施

本校は、建学の精神に「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を掲げ、「真剣味」を校訓としています。

2年前に本校では学校改革を行いました。中京大中京というスポーツが強い学校のイメージがあるかと思いますが、特色はそれだけではありません。梅村学園が運営する学校の1つであり、時代のニーズに対応して進化し続ける中京大学が身近にあるというアドバンテージもあります。そこで、11学部・17学科を擁する中京大学との「高大連携教育」を強化し、多彩な教養に触れる機会をできる限り提供することで「将来に生きる力」を育てようと考えました。

学校改革によって、特進コースと進学コースの2つを編成しました。

特進コースは、名古屋大学などの難関大学合格を目指すコースで、2年生から文系と理系にクラスを分けています。

進学コースは、附属校という特徴を生かし、推薦で中京大学へ進学できる体制をとっているコースです。2年生から別途、国際英語クラスも設けています。

この進学コースでは、大学受験にとらわれずに学習を進められることから、高大連携教育に取り組むようにしました。

その内容ですが、将来に生きる力を伸ばし、中京大学進学後に各学部でリーダーシップがとれる人材を育てるにはITと英語力が重要であると考え、高大7年間にわたりTOEICプログラムを年2回、春と秋に実施しています。高校1～3年の春まではTOEIC Bridgeを計5回、全員が受験します(国際英語クラスはTOEICテストを受験)。そして、3年の秋からは全員がTOEICテストに挑戦します。TOEICテストはその後大学4年まで計9回受験します。

また、高大連携のプログラムとして「+ME(プラスミー/中京キャリア発達プログラム)」を設置しています。

まず、1年次では、自分のキャリアデザインを考えて学部学科選びをしてほしいという考えから、キャリアデザイ



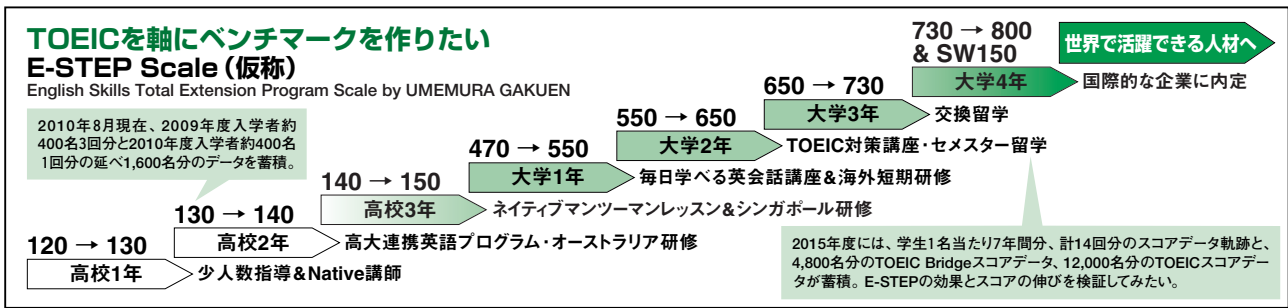
ン講演会を行ったり、中京大学オープンキャンパスに全員参加させています。また、情報科の授業で中京大学と他大学との比較なども含めて、学部学科について研究したことをPowerPoint等を使ってプレゼンもさせています。

2年次では、高大連携学部授業に取り組んでいます。中京大学の17学科から興味のある学科を4つ選ばせ、90分4コマの授業を合計8日間体験させています。これは学科選びに悩んでいる生徒はもちろん、既に志望学科を決めている生徒に対しても、視野を広げさせることが必要ではないかと考えて実施しているものです。

現在の体制となって2年目ですので、3年次に関しては予定になりますが、中京大学入試センターの担当者を招いて個別進路相談を行ったり、附属推薦で進学する予定の生徒全員を対象に海外短期研修を実施したり、TOEICテストの対策セミナーを1週間程度行うことを考えています。

この+MEを経て大学に入学してからは、英語教育に関して「E-STEP(イーステップ/English Skills Total Extension Program)」を用意しています。これは、学内の3つの支援センターが連携して、英語力向上をサポートするもので全学部生を対象としています。資格センターでは、「スーパーTOEIC講座」や「毎日学べる英会話講座」などを設けて資格取得を支援し、国際センターでは目的に応じ

【資料】今後のプラン



た海外体験のプログラムを用意しています。キャリアセンターでは、セミナーなどを実施して英語力を実社会でどう生かすかを考えさせるような取り組みをしています。

では、次に英語授業についてご説明します。

進学クラスでは「聞く・話す・書く・読む」をバランスよく指導しています。授業ではできるだけたくさん英語を使わせるために1クラス20人の少人数でチームティーチングをしており、週1回は2名の教諭（ネイティブ）が指導にあたっています。そして、学期末にはスピーキングテストを行い、この結果を成績評価にも入れています。

TOEIC Bridge対策としては、1年生全員が公式ワークブックを購入しています。2年からは週2時間、「TOEIC演習」を設け、CALL教室にてTOEIC BridgeやTOEICテストのリスニング教材を使った学習をさせています。

そのほか、正規のカリキュラムではありませんが、希望者には放課後に有料でネイティブによる少人数英会話レッスンを開講しています。毎年多くの希望者が集まっています。

こうした取り組みを行うとともに進学クラスに2年次から設けている国際英語クラスでは、国際的に活躍できる人材の育成を目指してさらに英語教育に力を入れています。希望制で定員は40人で、英語に興味のある、英語が好きな生徒を募集・選抜しています。

主な取り組みとしては、高大連携プログラムとして、中京大学国際英語学部国際英語学科のネイティブ講師による授業を大学で週2時間行っています。また、海外研修プログラムも設けています。2年生では修学旅行として、オーストラリアのブリスベンで10日間の語学研修を実施しています。クラスに本校の生徒が1、2人しかいないようにして、なるべく多く英語を使わせています。そして、帰国後は語学研修報告会を設けて、後輩に体験を聞かせるようにしています。3年生では、先ほどお話ししたように、附属推薦で進学が決定した生徒全員を対象にシンガポールへの海外短期研修を予定しています。

国際英語クラスでは、授業の中でCALLシステムを使った語学学習プログラムを展開しています。また、月曜日と金曜日の7時間目を使って、教諭（ネイティブ）による少人数授業を行っており、カリキュラムとは別に発信型の英語力の養成に取り組んでいます。そのほか、中京大学での授業の後に大学の国際センターにて留学生との交流も行っています。

**国際英語クラスではTOEICスコアが1年間で132点上昇。生徒の95%が50点以上アップ**

本校がTOEICテスト・TOEIC Bridgeを導入した理由は、附属推薦で大学進学ができるために学習のモチベーションが下がってしまうという問題点があったためです。競争心を育て、継続学習を促進したい、一般入試と内部推薦の学力差を縮めるようなものが必要であると考えました。TOEICテストやTOEIC Bridgeはスコア評価であるため、この目的に適しています。また、中京大学ではTOEICテストを活用しているので連携させることもできます。さらに外部環境に目を向けると、日本企業の急速なグローバル化が進み実践的な英語力が求められてきています。そのようなことから、時代の変化に対応するためにも導入しました。

テストは学校行事として取り組んでいます。テストを行うにあたり、実施マニュアルの簡易版を作成するなど、英語科以外の先生方に協力いただけるように工夫しています。

国際英語クラスのテスト結果ですが、2008年度入学生が2年次の1回目に受験したときの平均スコアは363点でした。2回目は397点、3年の1回目の受験では495点となりました。教員側の目標の500点にはわずかに届きませんでした。1年間で132点アップしています。スコア分布を見ると95%の生徒が50点以上アップしていました。

スコア上昇の理由ですが、海外研修によって英語をもっと話せるようになりたいと感じたり、TOEICスコアが上がると将来役立つことに気づき、学習のモチベーションが高まったことがあるようです。本校では中京大学への推薦枠を在籍生の90%としているのですが、そのうち国際英語学部についてはTOEIC470点またはTOEIC Bridge150点以上の生徒を優先的に受け入れており、この基準スコアも刺激になっているのではないかと思います。3年生の授業の中で、TOEICテストに出てくるビジネス関連の用語の説明などを行ったことも良かったのではないかと考えています。

最後に、今後のプランですが、高大連携の中でテストを実施していますので、TOEICを軸に世界で活躍できる人材になるためのプログラムを構築し、生徒に明確に提示できるようにしたいと考えています【資料】。2015年度には7年間分のTOEICテスト・TOEIC Bridgeのデータが揃いますので、各取り組みとの効果などを検証したいと思います。